

# はじめに



滋賀県は、日本最大の湖である琵琶湖を中心に、森-川-里-湖がつながる豊かな自然環境の中で、人々の暮らしや文化が発展してきました。そのため、本県には、自然と共に生きてきた先人たちの

知恵や営みが息づいており、それらを本県の魅力として大事にしたいと考えています。

令和7年を振り返ると、環境について考える良い機会となる大きな行事が複数ありました。

4月から約半年間にわたって開催された大阪・関西万博では、本県は「Mother Lake～びわ湖とともに脈々と～」をテーマに出展し、自然豊かな滋賀の四季折々の風景と周辺で生きる人々の営み、時間や季節によって様々な姿を見せる琵琶湖の美しさなど、本県の魅力を国内外の多くの方々に御覧いただきました。

7月21日から25日には、国際デー「世界湖沼の日（8月27日）」制定後、初となる第20回世界湖沼会議（WLC20）がオーストラリアのブリスベンで開催されました。現地では、本県主催の「世界湖沼の日」スペシャルセッションを開催したほか、初めて高校生を現地に派遣し、次世代を担う若者ならではの発表や交流の機会を設けました。また、制定後初めて迎える「世界湖沼の日」当日には、47都道府県が連携して「世界湖沼の日」の意義を伝えるメッセージを共同発信したほか、びわ湖ホールで制定記念イベントを開催し、水や湖沼の価値、それらがもたらす恵沢について皆が対話し、共感を広げる場となりました。

8月24日には、県の木育施設「しがモック」をオープンしました。館内にはびわ湖材をふんだんに使用した、山や琵琶湖といった滋賀県の地形を

イメージした遊具を設置しています。また、県内の木工家が製作したおもちゃを取り入れ、木と触れ合いながら、木の良さや利用の大切さを学んでいただける施設となっています。当施設を「しが木育」の拠点として、暮らしと森と琵琶湖、人や世代をつなぎ、子どもたちの豊かな心を育てていきたいと考えています。

9月から10月には、本県では昭和56年（1981年）の「びわこ国体」以来44年ぶり2度目の「第79回国民スポーツ大会」と「第24回全国障害者スポーツ大会」を開催しました。わたしがSHIGA輝く国スポ・障スポMLGs宣言に基づき、マイボトル持参の呼びかけ、リサイクル金属でのメダル作成、琵琶湖のヨシを利用したスタッフ用帽子の採用（開・閉会式）など、環境に配慮した取組を多く行いました。

令和7年は、これらの行事により、本県の魅力を広く発信することができました。また、様々な人とのつながりを通して、琵琶湖や環境について考えるきっかけにもなったと思います。

本書は、滋賀の環境や琵琶湖の魅力への関心を高め、理解を促進し、環境保全活動をさらに広げていくための一助となることを期待して作成しています。この冊子が多くの方々に活用され、滋賀県の豊かな自然を未来へつなぐ取組に貢献できれば大変うれしく思います。これからも私たちは地域の皆様と協力しながら、自然と共生する持続可能な社会の構築に向けて全力で取り組んでまいります。ぜひ一緒に頑張りましょう！

令和8年（2026年）1月

滋賀県知事

三木大造